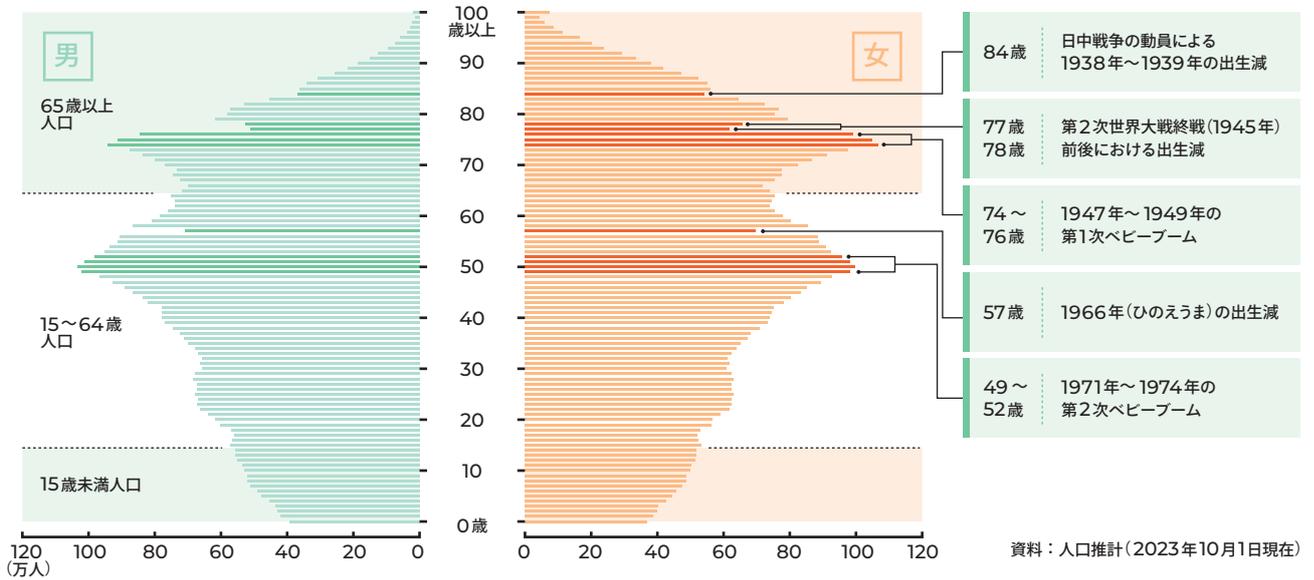


1

日本の人口

2023年10月1日現在の日本の人口は1億2435万2千人

人口ピラミッド(2023年10月1日現在)

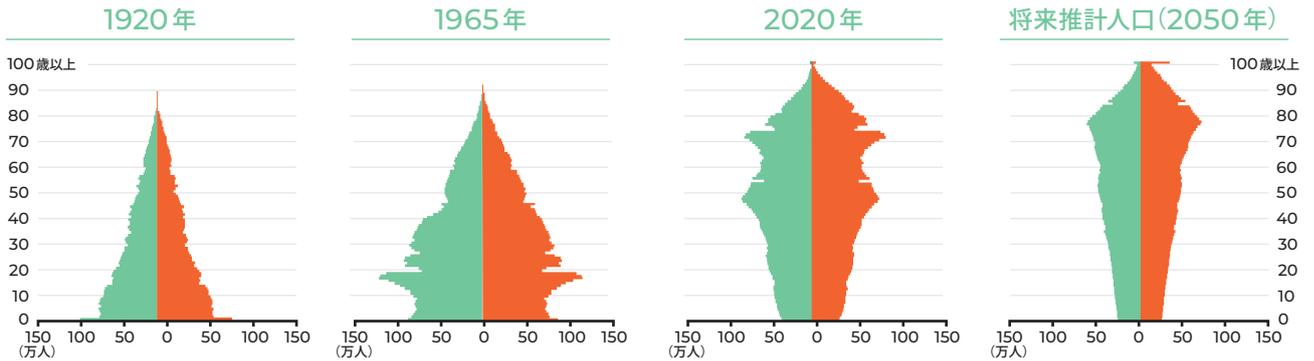


人口の年齢構成は時代とともに大きく変化

人口ピラミッドの推移

人口の年齢構成の変化は、人口ピラミッドの形の変化に明白に現れています。

■ 男 ■ 女



1920年

1920年の人口ピラミッドは、若い年齢ほど人口が多く裾野の広い、正に「ピラミッド」のような形をしており、1950年頃まではこの形が続いていました。

1965年

1965年の人口ピラミッドは、1947～1949年の第1次ベビーブーム後に出生数が減少したため、16～18歳をピークとする大きな膨らみを持ち、その下の年齢階級がすぼまった形となりました。

2020年

2020年の人口ピラミッドは、第2次ベビーブームの1970年代前半における出生数の増加とその後の出生数の減少を反映し、71～73歳及び46～49歳をピークとする2つの膨らみを持ち、その下がすぼまった細長い「つぼ」のような形となっています。

注：2020年は不詳補完値による。

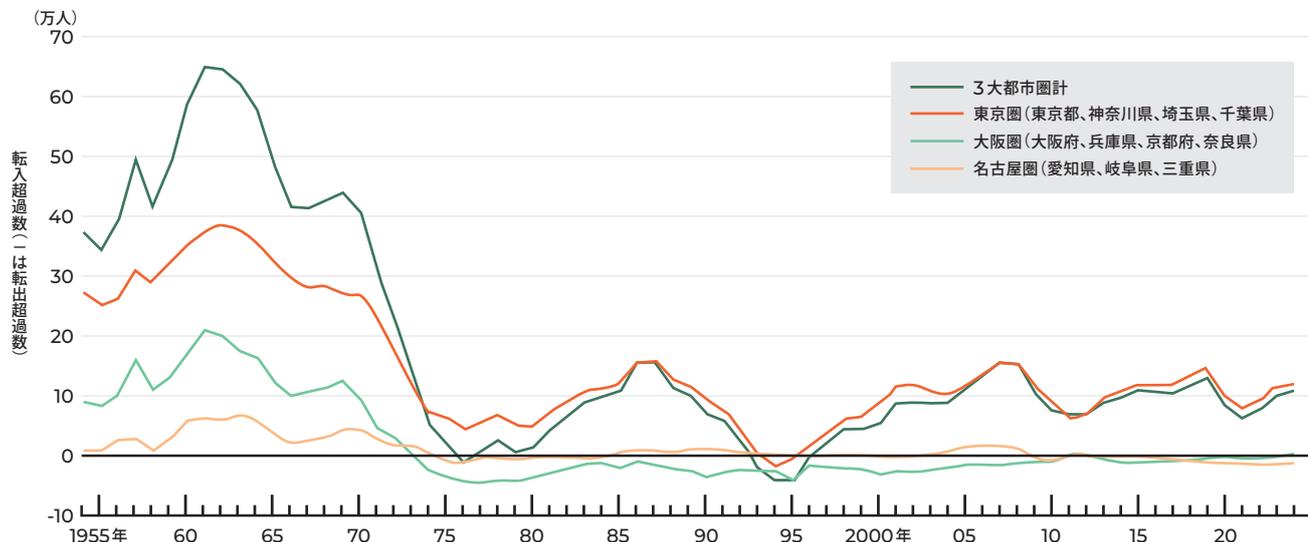
資料：1920年、1965年、2020年は国勢調査結果。2050年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」(出生中位(死亡中位)推計)

東京圏は29年連続の転入超過

3大都市圏の転入超過数※の推移（日本人移動者）（1954年～2024年）

3大都市圏（東京圏、名古屋圏及び大阪圏）の転入超過数をみると、3大都市圏全体では11万1294人の転入超過となり、前年に比べ9843人の拡大となっています。東京圏は11万9337人の転入超過となり、前年に比べ4535人の拡大、29年連続の

転入超過となっています。名古屋圏は1万1517人の転出超過で、前年に比べ2069人の縮小となっています。大阪圏は3474人の転入超過で、前年に比べ3239人の拡大となっています。

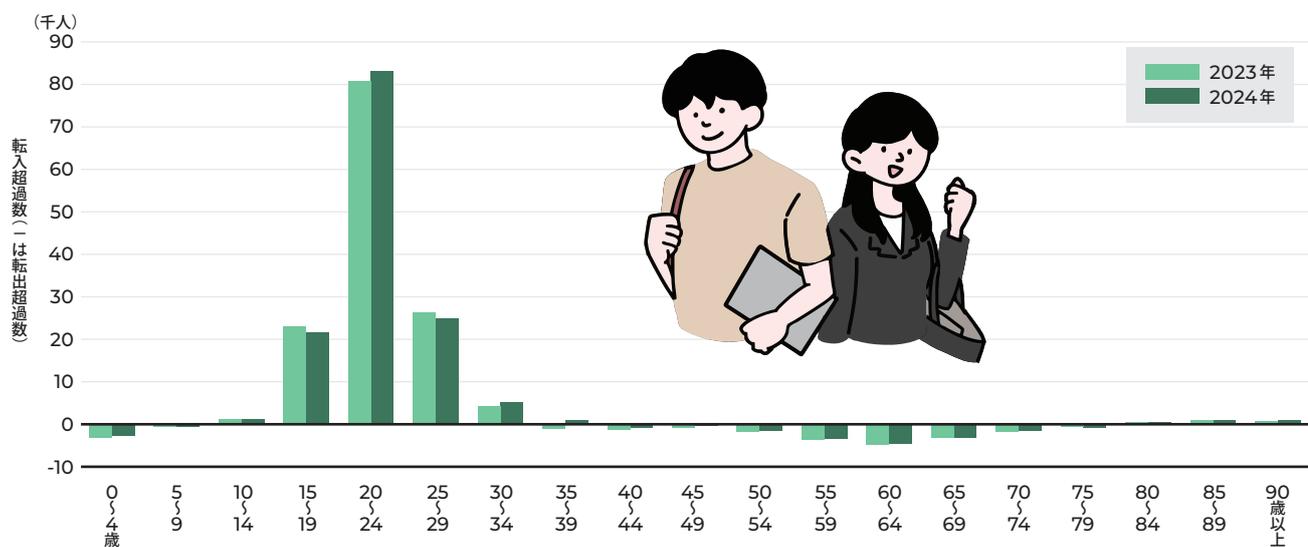


※ 転入者数から転出者数を差し引いた数。転入超過数がマイナスの場合は、転出超過を示す。

資料：住民基本台帳人口移動報告

東京圏の年齢5歳階級別転入超過数※（日本人移動者）（2023年、2024年）

東京圏（東京都、神奈川県、埼玉県及び千葉県）の転入超過数を年齢5歳階級別にみると、20～24歳が最も多く（8万3133人）、次いで25～29歳（2万4701人）、15～19歳（2万1503人）などとなっています。就職や進学により移動することが多い若い世代が東京圏に集中していることがわかります。



※ 転入者数から転出者数を差し引いた数。転入超過数がマイナスの場合は、転出超過を示す。

資料：住民基本台帳人口移動報告